

水と文学 (11)



前東京都水道局理事 小泉 智和

「道頓堀」が熱い。

そう、今年の阪神タイガースの活躍で、何かと道頓堀が話題になっています。

太田大阪府知事が、ダイブ容認とも取れる道頓堀の川ざらいを発言すれば、市長が安全面から「アカン、アカン。それに管轄が違う、管理は府ではなく市だ」と言う。

道頓堀にネオンの影を落とすグリコは、マラソンユニフォームを縦じまのタイガースユニフォームに変えました。そして、川には「阪神タイガース虎船」が就航しました。

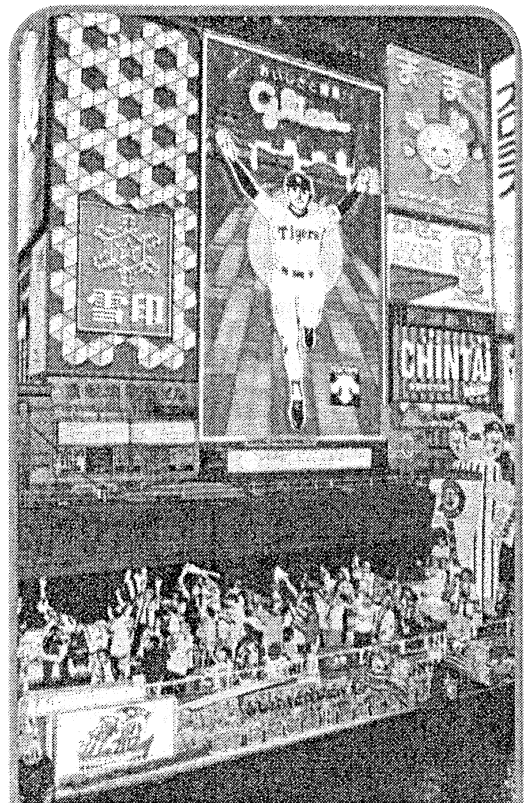
変わらないのは川の流れと大阪の人情です。そんな機微を描いた書に宮本輝の「道頓堀川」があります。

彼は、道頓堀川を紹介します。

「夜、幾つかの色あざやかな光彩がそのまわりに林立するとき、川は実像から無数の生あるものを奪い取る黯い（くろい）鏡と化してしまう。不信や倦怠や情欲や野心や、その他まといついているさまざまな夾雑物をぐるりと剝いで、鏡は

くらがりの底に簡略な、実際の色や形よりもはるかに美しい虚像を映し出してみせる。だが、陽の明るいうちは、それは墨汁のような色をたたえてねっとり淀む巨大な泥溝である。

大阪市の中心を南北に流れる東横堀川



道頓堀川の虎船

(サンケイスポーツより)

は、西へほぼ直角に曲がりきって、そこで道頓堀川となり、歓楽街をつらぬきながら尻無川と名を変えて大阪湾へ落ちていく。あぶくこそ湧くことはないが、ほとんど流れのない、粘りつくような光沢を放つ腐った運河なのであった」、と。

○ 宮本輝の自分史

(宮本輝公式サイトから)

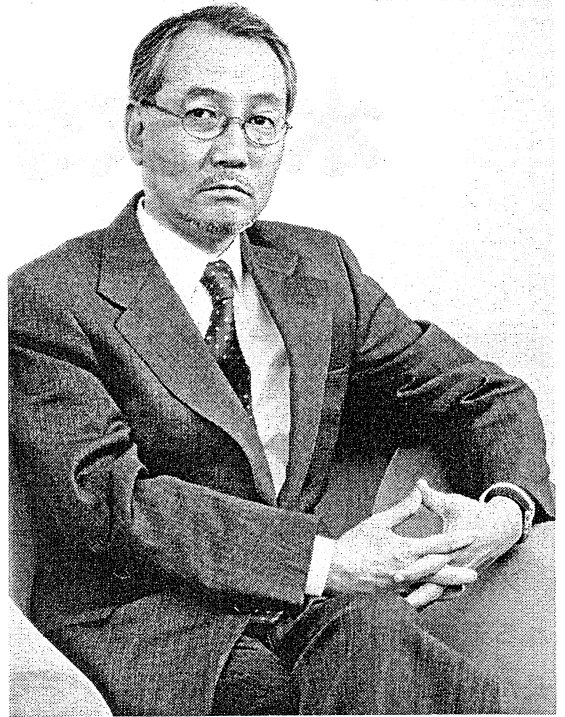
宮本輝、本名宮本正仁は、昭和22年神戸市で生まれました。中学に入学するまでは、父の事業の関係で居所を転々としています。

3歳の時、愛媛県南宇和郡一本松町、5歳の時、大阪市北区中之島、9歳の時、富山市豊川町、10歳の時、尼崎市、11歳の時、大阪市福島区上福島といった具合です。

父の仕事はうまくいかず、12歳で中学に入学した頃は、貧困の渦中にあり、父の女性問題、両親の喧嘩、母のアルコール依存症といった問題で、彼は、現実から逃れる場所として何時も押入れの中で読書をしていました。

昭和41年、追手門学院大学文学部に入学しますが、父が逝去、父が残した多大な借金の取立てから逃げるように大東市へ転居します。そして、経済苦のため道路工事、バーテン、ウェイター、ホテルのボーイ、中央卸市場など、アルバイトを転々としします。

道頓堀界限で、酒とばくちに明け暮れますが、何とか大学を23歳で卒業して、



宮本輝
(新潮社 提供)

サンケイ広告社に入社します。

25歳で結婚しますが、「強度の不安神経症」に罹り、通勤にも困難をきたす状況になりました。27歳で長男が誕生した頃から、小説を書き始めます。

28歳、病状が悪化して退社、自宅で本格的に小説を書き始めます。

30歳、大阪の場末堂島川そばの食堂や水上生活者の生活を描いた「泥の川」で太宰治賞を受賞。翌年、かつて北陸富山で生活した子供の頃に想いをはせて書いた「蛍川」で、芥川賞を受賞しています。

32歳、肺結核を患い、伊丹市に転居。その後、「愉楽の園」、「優駿」(吉川英治文学賞と中央競馬会第1回馬事文化賞を受賞)、「夢見通りの人々」、「花の降る午後」、「流転の海」、「ひとた

びはポプラに臥す」、「約束の冬」など数々の作品を発表しています。

平成7年には、阪神大震災で自宅壊滅の被害にあっています。

波乱万丈の人生ですが、今年56歳、益々盛んな執筆活動を続けています。

○ 水の都大阪

宮本が愛して止まない大阪は、水との深い係わり合いを以って発展してきました。

かつては、聖徳太子が四天王寺を建立し、また難波宮も置かれましたが、石山本願寺跡に豊臣秀吉が大阪城を築城してから、大阪は発展します。

大阪冬の陣、夏の陣で焦土となりますが、江戸時代になり「天下の台所」として大発展します。商人の町大阪として栄え、堂島の米市場が全国の米相場の基準となりました。

しかし、明治に入り、水系伝染病のコレラが流行した時、大阪を取り巻く川が災いしました。尤も、これが理由で、早くに上下水道が整備されることにもなりました。

宮本は、「道頓堀川」で、道頓堀を「ほとんど流れのない、粘りつくような光沢を放つ腐った運河なのであった」と表現し、また「泥の川」で、昭和30年の大阪の場末堂島川について、「堂島川と

土佐堀川がひとつになり、安治川と名を変えて大阪湾の一角に注ぎ込んでいく。その川と川とがまじわるところに三つの橋が架かっていた。昭和橋と端建蔵橋、それに船津橋である。藁や板きれや腐った果実を浮かべてゆるやかに流れるこの黄土色の川を見おろしながら、古びた市電がのろのろと渡っていった」と表現しています。

概して、大阪の川は余り綺麗ではありません。然し、東京のように汚いからといって埋めてしまわなかった大阪は正解かもしれません。

今日、大阪では、「水の都大阪グランドデザイン」が策定され、建物と水が協調した街並みづくり、具体的には、道頓堀川、堂島川、木津川、東横堀川の口の字型で形成される「水の回廊」づくりが進められています。



大阪城遠景
(天守閣隣接地が大阪市水道局大手前配水池)

○ 大阪の水事情

道頓堀川の上流は淀川です。更に辿れば琵琶湖となります。

大阪は、明治28年の給水開始から今日に至るまで全て淀川を水源としています。

しかし、昭和30年代の高度経済成長を境に、琵琶湖回り並びに淀川沿岸の市街化が進み水源が汚染され、

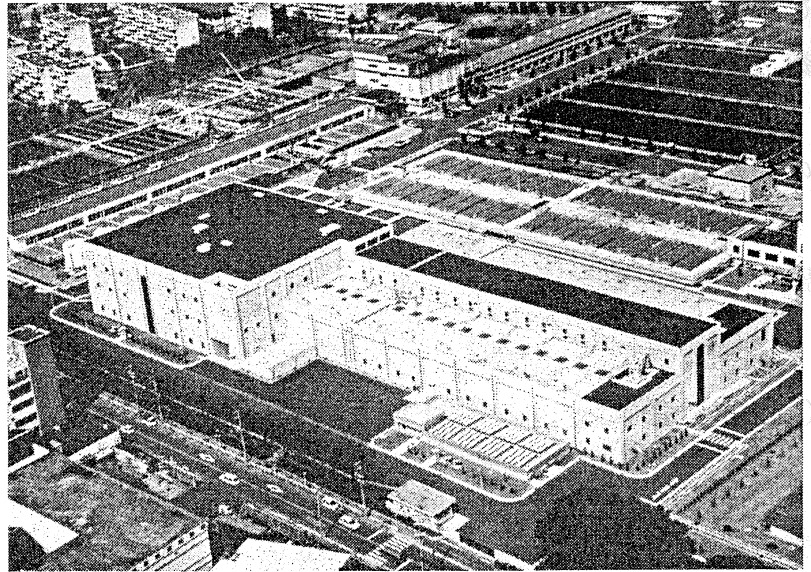
かび臭などの異臭味が毎年発生するようになりました。

大阪市では、平成4年度より高度浄水施設整備事業を実施し、平成12年から市内全域において高度浄水処理水の供給を開始しました。

このことは、余り自慢になりません。水道にとっては、川が清浄であることが何よりも望まれるからです。清浄であれば、何も高いお金を出して高度浄水処理を導入する必要はないのです。

最近、大阪では、水面、水質を安定させる水辺整備が勧められていると聞きます。

市民ふれあいの場、「水の回廊」が大阪のシンボルになる日が待たれます。



庭窪浄水場 高度浄水処理棟

7月、淀川の流末、道頓堀川の川ざらえは済みました。

道頓堀ダイブ、18年前の阪神タイガースが優勝した時は、数人程度、それが昨年のW杯では2000人を超えたそうです。

果たして、今年の阪神タイガースの優勝では……？。

“六甲おろし”でドンチャン騒ぎの翌朝、宮本輝なら、戎橋辺りで「はがれちぎれて風化した夥しい数のポスターが欄干を覆い、たもとの、いつも日陰になっている一角から、小便や嘔吐物の湿っぽい悪臭がたちのぼっている。歓楽街の翳（かげ）を宿して、流れるか流れないかの速度で西へ動いていく道頓堀川の水が、秋の朝陽を吸っていた」と、語るでしょう。